



第19回 社協ふれあいまつり 第15回 福祉ひろばまつり

●六月三日、絶好のまつり日和になり、社協ふれあいまつりと福祉ひろばまつりが同時開催され、賑やかな祭りとなりました。

何と言っても一番の目玉は無料の焼きそばコーナー。隣は育成会による無料ポップコーン、その隣は水ヨーヨー釣り。屋内では工作とバルーンづくりコーナー、まちかど健康相談。ひろば入口のワンちゃんコーナーは、多くの子ども達に大人気でした。

隣の芝生広場では松本市社会福祉協議会第19回ふれあいまつりが開催されていて、ステージでは劇やマジック、ヒップホップダンスが次々と披露されていました。他に豚汁・綿あめ・かき氷・卵かけごはん・山菜おこわ・野菜販売の露店が並び、司会者の声や音楽で賑やかでした。
お客様にとっては、ひろばまつりや社協のふれあいまつりを行き



(中田 清和)

来して楽しかったに違いありません。お客様がどのように動き楽しんでるか、はこれからの情勢分析に委ねますが、それぞれの祭りの主目的が違っても、同じスペースで同時開催することは、賑やかで良い事だと思えます。
しかし、「完全に合流してやる」ことは難しいのではとの意見も聞かれました。

お祭りに来られるお客様が楽しく、満足した時間が少しでも多くなる様に、我々は努力していかなければならないと思えました。

(中田 清和)

●好天に恵まれ15回目の福祉ひろばまつりが行われた。

二年ぶりの社協ふれあいまつりとの開催だ。町会連合会・育成会・健康づくり・日赤奉仕団・ボランティア松南など関係団体のチームワークで、人気の焼きそばなど諸計画を卒なく運営できた。見学者も障害を持つ方の発表や応援団体の熱心な姿に接し、福祉を体感する機会となった。

福祉を担う組織が行う年一回の合同イベント。サービス型企画の他に、フードドライブなど見学者参加型企画を共同実施するなど、ひと工夫も課題だろうか。

「ひろばがないと一人ぼっちの町になってしまふ」とコーディネーターさんがつぶやいた。利用者は増えているが、「気楽に集う健康ひろば」としておおいに活用してほしい。

(白澤 幸男)

【目玉の焼きそば限定二〇〇食】

●事前の整理券配布ということで、計画的な運営ができたと思います。

敢えての問題点は、お子さんを抱っこしたお母さんから「この麺は卵を使っていますか」と聞かれ答えられなかったこと。食物アレルギー対策はこのイベントに限らず必要なことだと感じました。もう一点、最後に10食程余りが

出たのですがその扱いについてある団体の方から分けて欲しいとの希望があったので持っていたらどうかとの提案がありました。それでは整理券を配った意味がないとの反論もあり、最終的に事前準備を手伝ってくれた方々に食べさせていただくことにしました。こういったことも今後の課題として検討していきたいものです。

(伊藤 和彦)

この度のまつりの様子と感想を3名の方から寄せていただきました。なんなんひろば文化祭・福祉ひろばまつり・福祉協議会ふれあいまつりを、何時、どんな内容でどの様にしたらよいか？同日開催が良いか否か？未来まつりと団体のまつりのあり方を考える機会にして頂けたらと思います。



地区球技大会終わる

七月二日、心配した天候も逆に運動日和に…。年々参加チームや人数が少なくなっているが、町会の枠を超えた混成チームでの戦いも…和気あいあいの雰囲気の中にも白熱した戦いが展開される。
競技する者や応援する者が共に大きな歓声や笑顔が多くみられた一日となりました。

【野球の部】

- 一位 宮田中・芳野町
- 二位 宮田西
- 三位 南松本一丁目
- 四位 宮田東・双葉町

【ソフトバレー】

- 一位 双葉町・芳野町・宮田東
- 二位 芳野町・宮田西
- 三位 宮田東

【卓球】

- 一位 西村・今溝組 (双葉町)
- 二位 原田・小松組 (宮田西)
- 三位 清水・北林組 (南松1)
- 四位 岡里田中組 (南松2・芳野町)

【マレットゴルフ男子】

- 一位 北澤 勝 (宮田東)
- 二位 月岡 昭治 (宮田東)
- 三位 橋詰 倍美 (双葉南)

【マレットゴルフ女子】

- 一位 星 春美 (芳野町)
- 二位 中村美代子 (南松1)
- 三位 印出 啓子 (双葉町)

ウォーキング講座 地区周辺巡り

近年、幅広い年齢層の健康づくりがウォーキングが推奨されています。そこで地区の道沿いの庭先に咲く花や、オーブングーデンとして公開しているお宅の花々を見て回り、楽しみながら歩く習慣が身につく事を願い、企画・実施しました。

参加しての感想

5月の福祉ひろばでの「ふれあい健康教室」に参加した時に、6月に「近隣を歩くウォーキング講座」の紹介がありました。私は73歳迄は清掃のパートの仕事をして、歩くことに自信がありましたので、参加申し込みをしました。この日は朝から雲一つ無い真つ青な青空で、頭上には飛行機雲の白い波状が参加者を見守って居るかの様でした。天候は金銭で買うことが出来ないもので、恵まれた天候に私は幸運を感じました。そして、歩きながら70年前の小学生だった頃の事を思い出しながら幸せな気分でした。館長さんの案内で「松本

オープンガーデン」の4か所を巡りました。手入れの行き届いた庭で、数知れぬ多くの美しい花に圧倒され、感動致しました。庭のオーナーの方は、気高く優しい心の持ち主で、松本の立派な社会貢献の実践者だと思えました。40年前に松本に移住して高齢者になった今、公民館や福祉活動に参加させていただけることをありがたく幸せに思っています。

(芳野町 佐々木千恵)



地域の小・中学校 を応援

本年度から開明小学校もコミュニティースクールが、本格的にスタートしました。目的としては、保護者や地域住民によって行われてきた

学校支援活動や学校サポート(学校応援団)事業をより推進することを通して、学校運営についての連携強化を図り、学校・保護者・地域住民の信頼関係をより深め、一体となって子どもの健全育成に取り組みうとするものです。

【気軽に学校に足をーそして 支援・協力をお願いします】

学校の様子を見、知ってもらい、もっと開明小に関わってもらえる様にと、6月30日(金)に授業公開を実施しました。

当日は、地域の方への周知が行き届かぬ面があったのか地域の方の姿は多くありませんでした。今後、回覧等で更に告知して頂く様にしたいと思えます。気軽に掛け参観して下さい。

また、学校の教育活動・環境整備・児童の安全確認等に支援・ご協力をいただける方を募っていますので、公民館まで申し出て下さい。

(浦澤和利)

授業公開を参観して

久しぶりの小学校は少々興奮気味の登校でした。子ども達の元気な姿は癒されます。4時間目の授業にやっ

に合い、全学年を駆け足で廻ってみました。

一番の感動は、6年生の保健「薬物乱用防止啓発講演会」で、若い女性講師の説明は、児童達の心に響いて欲しいものでした。

最後のまとめの言葉に、知らないうちに引き込まれてしまう怖さ、「友達だから」「ダイエットに効くから」「よく眠れるから」などのワードで小学生をも飲み込むクスリ。その事を小学生・中学生のうちから教え込まないといけません。

今回のコミュニケーションスクールももっと多くの地域の方々に参加して頂けたら良かったのにと感じました。

地区・地域の皆様、学校に行きましよう。

(百瀬 壽)



コラム松南

若者の酒離れ

ある調査によると、20代の約3割が酒を飲まないと回答し、50代の男性の場合は約4割が毎日若しくは週6日は飲む、との結果が出たようだ。たまに寄る居酒屋の店長の話では「若い方も見えるが一杯の生ビールで1時間くらい飲んでる。女子の方が飲みっぷりがいい」とのこと。

このような風潮になったのは様々な要因があるようだ。嗜好品への消費意欲の低下、娯楽の多様化、低収入化、「酔う」という行為に対する嫌悪感等など。若い頃は、20歳になるのが待ちきれなかったし、周りに酒の飲めない友達はいなかった。(そのためか、昨年ドクターストップがかかり1年以上の禁酒生活が続く)

「若者よ！居酒屋へ行こう」ももちろん若者に無理やり酒を飲ませようというのではない。コーヒーストップで「なんとカラテ」を飲むよりもためになることも沢山あるし、飲酒の席ならではのマナーもある。何よりも本音話が良く聞ける。そして、素敵な出会いもあるかも。

(伊藤和彦)